

演題 上顎前歯部に審美修復治療を行った2症例

演者名 松原 明日香

日付 2013年10月22日

Keywords

- 1)支台歯形成
- 2)プロビジョナルレストレーション
- 3)審美性の回復

<抄録>

今日、審美修復治療というと「機能性と審美性を両立し、生体とも調和し、構造的にも長持ちする」という概念が定着してきている。

今回、反省点の多かった2症例を発表する。

症例1 26歳女性

審美修復における評価のなかで重要な項目の一つに補綴物の永続性があげられる。それに大きく影響するのが、歯周組織の炎症であると思われるが、歯周外科後歯肉縁の炎症がなかなか消退せず、基礎的な手技においても反省点の多い1症例となった。

症例2 28歳女性

患者の審美意識が高く、正中とインサイザルエッジポジションがずれており、そこを補綴でバランスをとるために、苦慮した。

今回2症例とも、経過が浅く、これから予後を追っていくこととなるが、今回の反省を踏まえ、今後の診療に活かすべく、諸先生方のご意見・ご指導よろしく申し上げます。